

News Release

「大阪のクリエイター×ものづくり企業」3組の成功事例を発表 日本の強みを活かしたものづくりや海外発信をテーマにトークセッションを開催

～海外展開を目指す日本の中小企業支援事業が全国を廻るツアーの最終回を大阪で開催～

クリエイター(*)支援施設「クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町」(所在地:大阪市北区 所長:堂野 智史、以下メビック扇町)は、日本のものづくりやサービスの海外展開を志す中小企業とプロデューズチームの活動を支援する「MORE THAN プロジェクト」を手がける株式会社ロフトワークと共催で、12月22日にトークセッションを開催します。

このセッションは、株式会社ロフトワークが、「Local Talk Jam CARAVAN」として全国10カ所を巡回して開催するもので、最終開催地となる大阪会場では、大阪のクリエイターとものづくり企業との連携によって生み出された3事例を紹介し、日本の強みを活かした商品やものづくり、海外進出や世界への情報発信などをテーマに意見交換を行います。

(※)クリエイターとは、ソフト系IT、デザイン、イラスト、ライティング、編集、広告、企画、映像、写真、出版、印刷などに携わる企業や個人を指します。

目からウロコのアイデアで、市場に風穴

カッティングマットで国際特許もつメーカー「ミワックス」の3代目は2013年9月にメビック扇町で開催された「企業によるクリエイター募集プレゼンテーション」に登壇。持てる技術を雑貨という違う形に転用し市場拡大を狙っていましたが、そこで出会ったクリエイターから、今ある技術をきちんとブランディングすることを提案されました。そして生まれたのがモノクロデザインのカッティングマットです。緑色のものばかりだった中、ものづくりの現場で使い手のイメージを邪魔しない道具でありたいという消費者視点のデザインでした。そしてパッケージから初披露の展示会、ウェブサイトとネットショップの開設など販売までを視野にいれたブランド戦略により、ユーザーの幅が広がり、海外のバイヤーからの問い合わせも入っています。



メビック扇町でプレゼンテーションをする
ミワックスの美馬氏(2013年9月)

事例共有で、さらなる成功事例を

その他、絶滅の危機にさらされた「びわ湖真珠」を、グラフィックデザイナー、プロダクトデザイナーとのコラボレーションにより、商品開発からプロモーション、ブランディングまで行った事例、和紙の老舗卸問屋と活版印刷の職人、デザイナーが立ち上げた和紙ブランドが、わずか2年で多くのリピーターに親しまれるブランドに成長した事例を発表し、参加者との意見交換を行います。これらを共有することで、大阪からさらなる成功事例が生まれることをめざします。



2016年度グッドデザイン賞ベスト100を受賞した
カッティングマット

本件に関するメディアからのお問い合わせ先

クリエイティブネットワークセンター大阪 メビック扇町

広報担当：松井

〒530-0025 大阪市北区扇町 2-1-7 カンテレ扇町スクエア 3F

TEL:06-6316-8780 (平日 10:00 ~ 21:30)

FAX:06-6316-8781

e-mail:info@mebic.com

ホームページ : <http://www.mebic.com/>

参考資料

■MORE THAN プロジェクトとは <http://morethanprj.com/2016/>

日本の商材・サービスを海外へ届けたい中小企業×プロデュースチームの活動を支援する事業。
公募で採択されたプロジェクトには、経済産業省「JAPANブランドプロデュース支援事業」の補助金が交付され、情報発信や販路開拓などのサポートが提供されます。2016年度は株式会社ロフトワークが事務局を務め、「MORE THAN プロジェクト」というテーマで展開しています。

■イベント概要

「MORE THAN プロジェクト Local Talk Jam CARAVAN in Osaka」

日時:2016年12月22日(木) 18:30-21:30(20:30～交流会)

会場:クリエイティブネットワークセンター大阪メビック扇町
(大阪市北区扇町2-1-7 カンテレ扇町スクエア3F)

参加費:フォーラム 無料 / 交流会 1,000円

申込:<https://goo.gl/DA6eYw>

主催:株式会社ロフトワーク、メビック扇町

協力:経済産業省

▼プログラム▼

18:30～19:00 オープニングトーク

「MORE THAN プロジェクト」説明 「Local Talk Jam CARAVAN」開催意図

秋元友彦(株式会社ロフトワーク)

原亮介(株式会社ロフトワーク)

堂野智史(メビック扇町 所長・チーフコーディネーター)

19:00～20:00 トークセッション

1部「世界特許を持つ技術力で定番商品を目指すカッティングマット」

美馬徹也氏(株式会社ミワックス 経営企画室室長)

正田勝之氏(株式会社モート商品デザイン/プロダクトデザイナー)

カッティングマットは方眼罫や目がチカチカするようなドットが印刷されているものが多く、本体カラーはなぜかグリーンが主流。クリエイターやモノに対するこだわりが強い人達を満足させられる、シンプルでベーシックなデザイン性の高いカッティングマットの新定番をめざして企画・開発をはじめました。

2016年度グッドデザイン賞ベスト100を受賞。



2部「びわ湖真珠の3/50」

杉山知子氏(神保真珠商店 店主)

鈴木信輔氏(bold/グラフィックデザイナー)

戸田祐希利氏(暮らすひと暮らすところ/プロダクトデザイナー)

神保真珠さんが50周年で僕たちが関わっておよそ3年。
一気に何かを変える意識も無く、積み上げていく感覚で、
今後も分母と分子が1つずつ足されればと思っています。
びわ湖の真珠が育つのもおよそ3年かかるんです。
いろんな意味を込めて。



3部:和紙ブランド「off」

- 切り口から見出す、和紙×活版の次なる可能性

大上博行氏(オオウエ)

船木宣彦氏(船木印刷)

福島賢二氏(KENJI FUKUSHIMA DESIGN/

プロダクトデザイナー)



「off」は和紙の老舗卸問屋と活版印刷の職人、
そしてデザイナーで構成されるブランドです。

生活者の視点に立ち「ボールペン」や「お札」、

「メガネ」などの切り口から発想するプロダクトを生み出してきました。

和紙は使われてこそ、その効果を発揮します。

ブランド立ち上げからわずか2年ですが、多くのリピーターに親しまれるブランドに成長しました。

さらに「ボールペンで書ける和紙」シリーズは、来年の1月下旬より全国2,000店舗の郵便局での販売が決まっています。

これからも使いたくなるような肩ひじ張らない和紙製品を作り続けていきます。

20:00~20:30 クロージングトーク

「MORE THAN プロジェクト」の今後の展開とメビック扇町の関わり方

秋元友彦(株式会社ロフトワーク)

原亮介(株式会社ロフトワーク)

堂野智史(メビック扇町 所長・チーフコーディネーター)

20:30~21:30 交流会

▼プロフィール▼

美馬徹也氏 株式会社ミワックス 経営企画室室長

1981年生。透明デスクマットやカッティングマット、麻雀マットを日本で初めて開発したミワックスの3代目。某シューズメーカーで営業を経験後、家業であるミワックスに入社。数年営業を経験し、2015年に経営企画室室長に就任。1946年の創業時から続くOEMや下請け主体の業務に加えて、自社ブランドを確立すべく温故知新をモットーに経営・商品企画と日々精進中。

正田勝之氏 株式会社モート商品デザイン／プロダクトデザイナー

2001年、正田勝之、木村エリ、島内秀幸ら3名によりモート商品デザインを発足。商品企画、プロダクト、グラフィック、Web、スペース等カテゴリーにとらわれないデザインを展開。2008年、オリジナルブランド『moca』発表。近年は自社商品開発で得たノウハウを生かし、大阪や東京の工場オリジナルブランド開発を支援するプロジェクトに力を入れる。

杉山知子氏 神保真珠商店 店主

1974年生まれ。企業勤務の後、2014年に実家の神保真珠商店を継ぎ、滋賀県庁前に店舗を構える。主に海外輸出用として生産され、国内で知名度の低かったびわこ真珠を、商品販売を通して広く知ってもらい、生産者が安心して真珠を育て続けられる環境を整えたいと日々奮闘中。

鈴木信輔氏 bold／グラフィックデザイナー

グラフィックデザイナー。1974年生まれ。大阪芸術大学卒業。2012年ボールドを設立。コミュニケーションのあり方、人間関係の構築、デザインとは？を日々考えながら、新しい仕事や表現に挑戦中。寝てる間もデザインの夢を見る。

戸田祐希利氏 暮らすひと暮らすところ／プロダクトデザイナー

1977年愛知県生まれ。2011年「暮らすひと暮らすところ」をとして、大阪で活動を開始。国内各地の手工業の作り手と使い手との関わりの中で、商品の企画・提案を行っています。暮らしに豊かさがにじみだすような、日常生活を起点とした商品づくりを目指しています。2016年9月、拠点を愛知県犬山市に移した現在も、国内各地の伝統技術を持つ作り手の方々と、新たなプロジェクトが進行中です。

大上博行氏 オオウエ

和紙問屋。早稲田大学在学中より、バックパッカーとしてイランやパキスタン、インドなどシルクロードを放浪。卒業後は、秘境専門の旅行会社西遊旅行にて営業と添乗に従事。中国班に所属し、チベットやウイグルに何度も通う。退社後、家業である株式会社オオウエに入社し、offや和紙田大學などの製品を企画し、新たな和紙の可能性を模索中。伝統に頼り切らず、今を暮らす人(国内、海外問わず)に対して役に立つ和紙製品を作りたいと考えています。

船木宣彦氏 船木印刷

1977年東大阪市生まれ。1957年祖父が創業した活版印刷業・船木印刷の3代目。大学卒業後は司法試験を目指して勉強中だったが、父が病に倒れ、他界したことから家業を継ぐ。2003年入社、2005年より代表。

福嶋賢二氏 KENJI FUKUSHIMA DESIGN／プロダクトデザイナー

1982年滋賀県生まれ。大阪芸術大学デザイン学科卒業後、スウェーデン、HDK大学にてデザインを学ぶ。2008年から株式会社IDKデザイン研究所に勤務。喜多俊之氏に師事。2011年独立しKENJI FUKUSHIMA DESIGNを設立。文具、家具、家電などプロダクトデザインを中心にブランドづくりの根本からロゴ、商品企画、パッケージ、インテリアデザイン、展示会の会場構成まで、トータルにディレクションを行う。